

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書6章17～26節＞

### 1 イエス様は来る者は拒まず。来た者が何をどう聞くかが大事！

この辺りは、同じ出来事を記したと思われるマタイ福音書(4:23-5:12)の記事との相違が興味深い所です。しかし、イエス様の言葉と業を求めてあらゆる人が主のもとにやって来た、その人々にイエス様は語り出されたと記す点は同じです。イエス様は来る者は拒まず、です。よって、聞く者が何を、どう聞くかが大事になってきます。

### 2 イザヤ書61章の成就。主イエスが語る言葉そのものが持つ力！

「主はわたしに油を注ぎ 主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして 貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み 捕らわれ人には自由を つながれている人には解放を告知させるために」(イザヤ書61:1)

この預言の成就を思わせるイエス様の人々への語りかけです。マタイは「心の貧しい人々」と記しましたが、ルカは「貧しい人々」と記し、さらに「今飢えている人々」「今泣いている人々」と「今」を加えました。ルカの方が人々の実際の状況を考えていることが伝わってきます。しかし、ルカが伝えるイエス様の言葉もマタイ同様、革命を起こす先頭に立つ者が「立ち上がれ」と叫ぶようなものではありません。にもかかわらず、様々な辛い中に置かれている人々は主の言葉によって慰められ励まされたのです。なぜか？ 主が語られた言葉にさらに注目しましょう。

### 3 「すでに」と「いまだ」の間を、希望をもって生きるキリスト者！

「神の国はあなたがたのものである」(20)、と聞くと、遠い将来いつか待っている天国のことを考えるのではないのでしょうか。しかし、「神の国」は直訳すると「神の支配」です。神様が、イエス様によって私たちが方向転換し、神様に向いて生きる道を与えて下さったことを知った時から、

「いまだ」天国ではないけれども、「すでに」天国が用意され待っていることを思いながら生きて行ける「神の支配」の中を信仰者は歩み出したのです。つまり、もう、「神の国(支配)はあなたがたのものである」のです(ここで「である」は現在形です。つまり、遠い将来も、今生きているこの時も、すべて神の御手の中にある、そう考えながら生きて行けるようになったのです!)。よって、このキリストの到来、キリストの死と復活、この方の存在と言葉が私たちの力の源なのです！